

答え合わせ・解説

問1	答え 1 金沢市	中部地方の日本海側に位置する北陸3県（石川、富山、福井）のうち、能登半島を持つのが石川県です。富山県の県庁所在地は富山市、福井県の県庁所在地は福井市であり、石川県の県庁所在地である金沢市と混同しないよう注意が必要です。
問2	答え 1 標高が高い地域の気候を利用し、平地の出荷が少なくなる夏季に合わせて生産・出荷している。	中部地方の山間部で行われるこの農業は、夏の冷涼な気候を「天然の冷蔵庫」のように利用している点の特徴です。高知県や宮崎県で見られる、温暖な気候や施設を利用して出荷時期を早める「促成栽培」とは、気候条件の利用の仕方が正反対になります。このように時期をずらして生産することを「抑制栽培」と呼ぶこともあります。
問3	答え 1 保冷車を用い、収穫したその日のうちに都市部の市場へ届ける仕組み	レタスは非常に鮮度が落ちやすい野菜であるため、長野県の生産地では保冷車（冷蔵トラック）が普及したことで、遠方の大都市圏へも品質を維持したまま届けることが可能になりました。特に高冷地の涼しい気候を利用して作られる「夏秋（かしゅう）野菜」は、消費地に近い平地での生産が困難な時期に出荷されるため、迅速な配送システムが重要な役割を果たしています。
問4	答え 1 耕地面積のうち、田の占める割合が80%を超える非常に高い水準にある	北陸地方は日本を代表する米どころであり、特に新潟県などの統計を見ると、耕地面積の大部分を田が占めていることがわかります。具体的には、耕地全体のうち80%以上が田となっており、これは冬の積雪の影響で裏作（冬の間別の作物を育てること）が難しく、米の単作地帯として発展してきた歴史的・気候的な背景が影響しています。
問5	答え 1 二酸化炭素を排出せずに繰り返し利用できる、再生可能エネルギーの一つに位置づけられる。	水力発電は、自然界に存在する水の循環を利用して発電するため、石油や石炭などの化石燃料を消費しません。そのため、地球温暖化の原因となる二酸化炭素（CO2）をほとんど排出せず、永続的に利用可能な「再生可能エネルギー」として、環境負荷の低い重要な電源となっています。
問6	答え 1 標高が高い地域の冷涼な気候をいかし、平地の産地が品薄になる夏に時期をずらして出荷する抑制栽培が行われている。	長野県の高原地帯で行われているレタス栽培は、標高の高さによる夏の涼しさを利用した「抑制栽培」の代表例です。平地では気温が高すぎて野菜の生産が難しい夏から秋にかけて収穫・出荷することで、他の産地との競争を避け、有利に販売することができます。これに対し、暖かい気候を利用して時期を早めるのは「促成栽培」、都市の近くで行うのは「近郊農業」であり、それぞれ仕組みが異なります。
問7	答え 1 加賀友禅や金箔箔などの伝統的工芸品が、城下町としての歴史的背景の中で発展し、今もなお受け継がれている	金沢市は加賀藩の城下町として発展した都市であり、当時の藩主が文化振興に力を入れたことから、加賀友禅（染物）や金箔箔（金箔）などの優れた工芸技術が育まれました。これらは現代において「伝統的工芸品」として指定されており、歴史的な街並みとともに観光資源や地域の重要な産業となっています。他の選択肢にある「門前町」や「近郊農業」などは北陸地方のこの文脈においては誤りです。
問8	答え 1 飛騨山脈	中部地方の中央部には、北から順に飛騨山脈（北アルプス）、木曾山脈（中央アルプス）、赤石山脈（南アルプス）の3つの山脈が並んでおり、これらを総称して日本アルプスと呼びます。北陸新幹線のルートは、石川県や富山県といった日本海側の地域から長野県の内陸部へと抜ける際、最も北側に位置する飛騨山脈の裾野を通る形になっています。日高山脈は北海道に位置する山脈であるため、位置関係を正確に把握しておくことが重要です。